



べにまる

「輝きを未来に」

- 自ら学ぶ子 ○思いやりのある子
- 最後までやりぬく子 ○体をきたえる子

令和3年11月30日

発行責任者 松原 康雄

行事や児童会活動に頑張っています

松原 康雄

一年が経つのは早いもので、令和3年もあと一ヶ月あまりで暮れようとしています。今年も新型コロナウイルス感染症のためにこれまでとは違う制約の多い生活が続きましたが、ワクチン接種が進むにつれて新規感染者数が大きく減り、警戒レベルも1まで下がりました。学校でも引き続き感染対策をとりながらも、通常の教育活動に戻りつつあり少しほっとしているところです。

(この原稿を書いているのは24日なのでまだ学芸会前です) 校舎内には学芸会の発表に向けて器楽の演奏が響いたり、劇の衣装で校内を移動したりする姿が見られ、子どもたちの真剣に練習や準備に取り組む姿や楽しげに参加している様子を見ることができます。昨年はコロナのため学習発表会としての開催だったので、学芸会は2年ぶりです。2年生以上の児童はこの2年間の思いを込め、1年生は初めての参加でドキドキしながらも練習の成果をしっかりと披露してくれることと期待しているところです。

さて、後期児童会の活動に児童会三役による挨拶運動があります。児童会長の久志本君を中心に毎週月・水・木曜日の登校時間帯に行われていますが、新しい試みとして、昼の放送でその日の挨拶のよかった人を紹介しています。この取り組みが行われてから玄関に響く「おはようございます」の声が大きくなりました。また体育委員会では縦割り班を使った全校レクを実施し、文化委員会ではホールに1年生から6年生までの学年ごとにおすめの本を展示し、読書の呼びかけをしています。これまではコロナ禍で、児童会は計画を立てても実際は活動できないことが多くありました。この後期から感染防止を図った上で様々工夫された取り組みが行われ、児童会活動も活発化しています。これからの活躍が楽しみです。

学芸会

春の緊急事態宣言で、修学旅行の延期にともない、学芸会も延期されました。感染症対策として、発表学年の保護者のみの参観となりましたが、児童は今までの練習の成果を発揮して、とても上手に発表することができました。



4年生介護ロボット講習会

4年生は、総合的な学習の時間に「福祉」について学習しています。留寿都高校のお世話になり、介護ロボットの体験講習会に参加しました。少子高齢化が進む日本では、介護の問題は人ごとではありません。体験を通して様々なことを考えることができました。

